

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡 アメリカ最古のビール会社 175 年

山 口 一 臣

1. 序
2. Eagle Brewery の設立と初期の発展 (1829 - 1865 年)
創業者 D. G. Yuengling の経歴と Eagle Brewery の設立
1850 年代 南北戦争期における発展
3. 後継経営者の時代 (1866 - 1899 年)
D. G. Yuengling の義理の弟 (J. F. Betz) と長男 (David G. Jr.)
2 代社長 Frederick G. Yuengling と 1890 年代までの発展
4. 第 1 次大戦期と禁酒法の時代 (1900 - 1933 年)
3 代社長 Frank D. Yuengling と第 1 次大戦期の発展
全国禁酒法時代の多角化
5. 苦難時代の企業存続 (1934 - 1976 年)
1930 年代の企業存続
第 2 次大戦期 1970 年代の企業存続
6. マイクロブリュワリー発展期における成長と拡大 (1977 年 現在)
5 代社長 Richard “Dick” Yuengling Jr. と 1980 - 1990 年代の発展
後継姉妹による 2000 年以降の発展
7. 結語

1. 序

本稿の課題は、「アメリカ最古のビール会社」といわれる D. G. ユングリング・アンド・サン社の 175 年の歴史的な軌跡を解明することにある。ドイツからの若い移民 David Gottlieb Yuengling が、1829 年にペンシルベニア州ポッツビルに小さなビール会社 Eagle Brewery を設立してから、D. G. Yuengling and Son, Inc., は今日 (2004 年現在) までに 175 回の記念日を迎えることになる。この同族所有で小規模な会社 (small family-owned business) が、如何にして “nation’s oldest brewery” の称号を獲得しえたのかを、Eagle Brewery の設立と初期の発展 (1829 - 1865 年)、後継経営者の時代 (1866 - 1899 年)、第 1 次大戦期と禁酒法の時代 (1900 - 1933 年)、苦難時代の企業存続 (1934 - 1976 年)、そして マイクロブリュワリー発展期における成長と拡大 (1977 年 現在) の以上 5 つに時期区分して明らかにしていく。

これによって、次の諸問題についての解答が得られることになる。

1. ポッツビルの主要産業である石炭産業は、南北戦争期 第 1 次大戦期の発展時代を経て、その後急速に衰退していった。これによる移民や炭坑都市人口の急激な減少、およびビール需要の市場低下に、Yuengling 社はどのように対応したか。
2. 1920 - 1930 年代の禁酒法時代、1940 - 1960 年代の醸造技術と輸送の革新的進展により到来した全国的ビール会社 (national brewery) 時代に、小さな地域ビール会社 (regional brewery) に過ぎなかった Yuengling 社は如何なる戦略で対処したか。
3. 大量生産ビールの同質性と消費者の所得上昇により出現した 1970 - 90 年代のマイクロブリュワリー時代に、ビール業界で最も重要な自社ブランドに対する顧客ロイヤリティ (customer loyalty) を、Yuengling 社は如何にして獲得し維持したか。

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

4. 米国ビール産業の激しい競争の中で数百の会社が淘汰されていったが、Yuengling 社が 175 年にわたって存続しえたことは画期的事件といえる。この Yuengling 社の歴代社長はすべて、ポッツビルの主導的家族 (leading family) であったユングリング一族により 5 世代にわたって継承されていたが、彼らはどのような教育を受け、どのような能力を優先して社長に選任されたのであろうか。

なお、以下の記述の流れをより明瞭とするために、図表 1 は、主要人物によるユングリング家の家系図、また図表 2 は、Yuengling 社における歴代社長の氏名、誕生・死亡年、社長在任期間を示したものである。

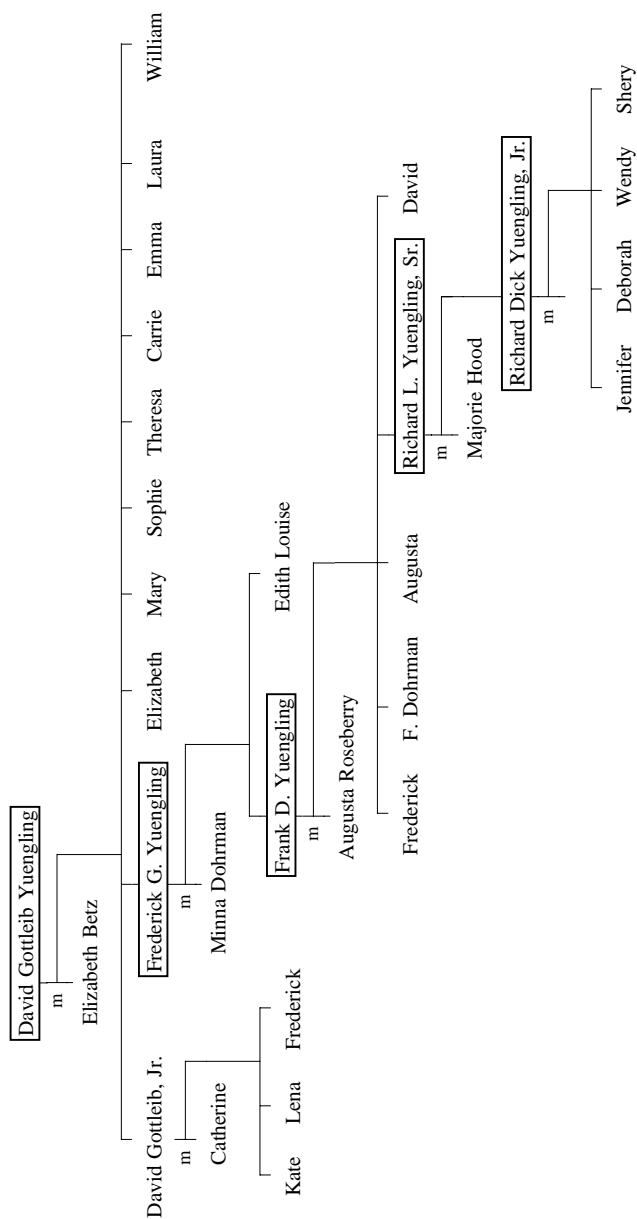
2. Eagle Brewery の設立と初期の発展 (1829 - 1865 年)

創業者 D. G. Yuengling の経歴と Eagle Brewery の設立

D. G. Yuengling and Son, Inc. の創業者である David Gottlieb Yuengling は、1806 年 3 月 22 日に、ドイツ (Germany's Kingdom) の南西ヴェルテンベルク州 (Wurtemberg) を流れるネッカー河 (Neckar River) 沿いの小さな村アルディングゲン (Aldingen) で生まれた (写真 1, および図表 3 を参照)。父親は Johann Friedrich Juengling (Yuengling の英国風訛り, 1774 - 1855 年), 母親は Anna-Maria (Wildermuth. 1771 - 1847 年) で、父の職業は肉屋兼ビール醸造業であり、土地と家畜をかなり所有していたために地域の中心的人物でもあった。Yuengling 家があったヴェルテンベルク地域はラガー・ビールの生産地として有名であり、D. G. Yuengling が若い頃、良質のビールを生産する技術を既に習得していたことは重要である。

冒険心に溢れたドイツの若者にとって、アメリカへの移民は魅力的な選択の 1 つであった。“land of opportunity” (「チャンスの土地」) である新大陸アメリカは、取引や職業選択などのあらゆることが「自由な国」 (“free country”) で、多くの可能性を秘めていたからである。Yuengling 家のあった地域はアメリカ植民地へのドイツ移民の中心地であったため、21 歳に

図表1 ユングリング家の家系図



(出所) Mark A. Noon, *Yuengling : A History of America's Oldest Brewery*, McFarland & Company, Inc., 2005, p.220 の Index より作成。
図表中の数字は、Yuengling 社の社長歴代を示す。

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

図表 2 Yuengling 社における歴代社長の氏名、誕生・死亡年、社長在任期間

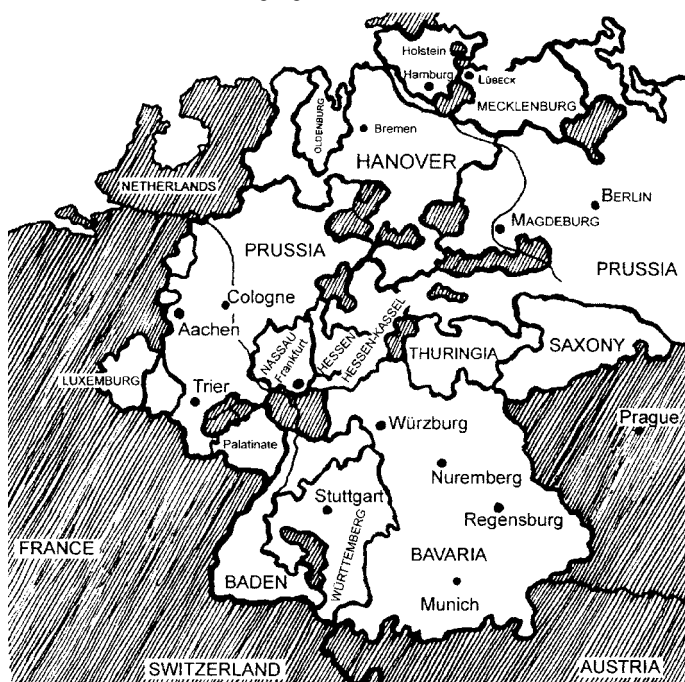
歴代	氏 名	誕生・死亡 年月日	社 長 在 任 期 間
初代	David Gottlieb Yuengling	誕生 1806年 3 月22日 死亡 1877年 9 月29日 (70歳)	1829 1873年
2 代	Frederick G. Yuengling	誕生 1848年 1 月26日 死亡 1899年 1 月 2 日 (51歳)	1873 1899年
3 代	Frank D. Yuengling (中興の祖)	誕生 1876年 9 月27日 死亡 1963年 1 月29日 (86歳)	1914 1960年 社長 1960 1963年 会長
4 代	Richard L. Yuengling, Sr. (通称 “Dick Sr.”)	誕生 1915年 8 月16日 死亡 1999年 3 月27日 (83歳)	1960 1985年
5 代	Richard Dick Yuengling, Jr. (通称 “Dick Jr.”)	誕生 1943年 3 月10日 死亡	1985年 現在

(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 220 の Index より作成。

なった D. G. Yuengling も 1828 年にドイツからアメリカに移民した。1820 - 1829 年におけるアメリカへの移民総数は 128,502 人、うちドイツ移民は 5,753 人で全体の 4.5% を占めたが、彼はそのうちの一人であった。

D. G. Yuengling は、当初ペンシルベニア州 Reading 周辺でビール事業を開始したが、翌 1829 年に Schuylkill River と 128 マイル離れた地点にある Pottsville に移住した。これは、Schuylkill Navigation Company が 1815 年に、Pottsville, Reading, そして Philadelphia をつなぐ Schuylkill 運河を建設する目的で設立され、それは 10 年後の 1825 年に完成してポッツビルとフィラデルフィアが連結されたため、この地の繁栄を期待してのことであった(図表 4 を参照)。事実、Schuylkill County の無煙炭 (anthracite coal) は、家庭用暖房や料理用燃料としても木材より安く、また鉄鋼製造業者にとっても安価な燃料として注目されていたため、運河完成後、ポツ

図表3 D. G. Yuengling の生誕地付近のドイツ（1815年）



（出所）Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 8.

D. G. Yuengling は、ドイツのヴェルテンベルク州シュトゥットガルト南部の小さな村アルディンゲンで生まれた。

ツピルの人口は 1826 - 1829 年に 27 倍、1829 - 1844 年にはさらに 2 倍（1830 年のポッツビル人口は 2,464 人、1831 年は 4,000 人）に増えた。

D. G. Yuengling は、1829 年にポッツビルの North Center Street にビール会社 Eagle Brewery（この社名は、息子とのパートナーシップにより D. G. Yuengling and Son. と変更した 1873 年まで維持）を設立した。初年度の年生産量は 600 パレルと比較的低かったが、同社の今日の製品種類と同様に多様なビールを生産した。すなわち、Lord Chesterfield ブランドに類似した pale ale，“strong beer”（アルコール度の高い植民地風ビール），“Dunkel-like” のラガー・ビール、そして濃い味の porter などである。

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

写真1 初代 David Gottlieb Yuengling
(1806 1877年)



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 7.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

写真2 2代 Frederick G. Yuengling
(1848 1899年)



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 50.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

無煙炭ブームは南北戦争まで続き、ポッツビルにおける居酒屋やホテルの数が急増し、Pennsylvania Hall, William Penn Hotel, Park Hotel, National House and Exchange Hotel, Rising Sun Hotel, American House なども Yuengling ビールの重要な小売販路となった。明らかに、ポッツビルのビジネス環境が Eagle Brewery の発展に大きく貢献したことは言うまでもない。

1831 年に Eagle Brewery のビール工場が火事で消失し、North Center Street から Sharp Mountain 近くの Fifth and Mahantongo Street に工場を移転することになったが、これは同社にとって一大転機となった。Mahantongo という名称は、Native American の「多くの食物を得るところ」ないし「多くの鹿肉」がその起源で、良質の水が出る泉のある地点として古くから知られていた。ビール会社にとって重要な spring-water 源泉を工場から僅か5ブロックのところに確保できたことが幸運で、これはその後、

会社のほとんどの歴史を通じて Yuengling ビールの主要な水の供給源となった。Yuengling 社が 1950 年代、同社のビールのラベル上に “Only Sparkling Mountain Spring Water Used” (「きらきらと光る山の泉から汲出した水だけを使っている」) と表示したのはこのためで、また 1954 年に給水所周辺の土地を購入し、それを “Yuengling’s Private Mountain Reservoir” ないし “Yuengling Park” として長く保存することになった。

水の供給に加えて、D. G. Yuengling は Mahantongo Street への移転によって他の恩恵も得ることができた。それは、それまで主流であった上面発酵のエール・ビールに対して、アメリカで 1840 年代頃から人気となった下面発酵のラガー・ビールへの参入をさらに促進できたからである。ラガーはエールより長い熟成期間と、そのイースト菌も 1 年中暗闇と低温で保存されることが必要であったため、工場背後の Sharp Mountain に数百フィート掘って作った人工洞穴はそれに最適であった。また、Schuylkill County や特にポッツビル の初期の住民がドイツ移民で、彼らの日常生活にとってラガー・ビールが必要不可欠のものであったことも Eagle Brewery にとっては幸運であった。

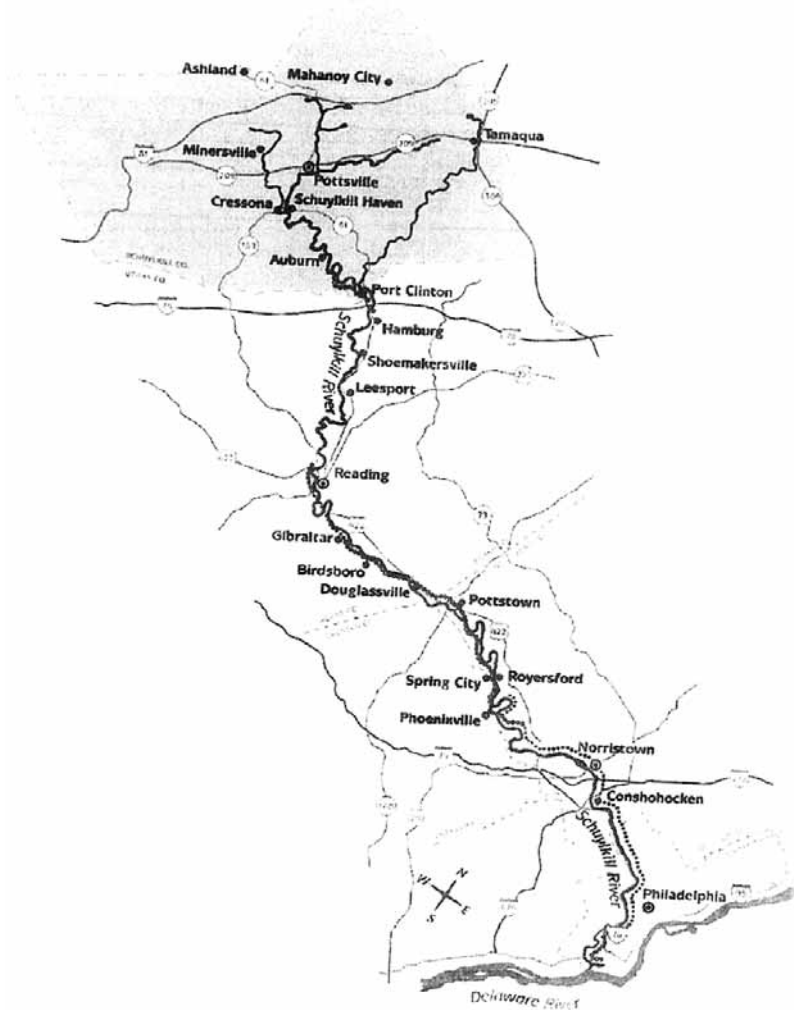
D. G. Yuengling は、1841 年 2 月 14 日に Elizabeth Betz と結婚し、3 人の息子 (David Jr. Frederick, そして William) と 7 人の娘 (Elizabeth, Mary, Sophie, Theresa, Carrie, Emma, そして Laura) の父親となり、さらなる事業の発展に邁進していくことになる。

1850 年代 南北戦争期における発展

1840 - 1850 年代に、「ラガー革命」 (“lager revolution”) と無煙炭産業の発展による Schuylkill County へのドイツ移民の増大が実質的に一致していたという事実は重要である。アルコールは、10 - 16 時間に及ぶ炭坑労働のハードワークと危険回避のために不可欠であったが、無煙炭の炭坑夫の間でラガー・ビールが特に人気となったのは次の理由による。 ラガー・

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

図表 4 Yuengling 社の本拠地 Pottsville 周辺の地図 (1829年)



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 14.

ビールは味の濃いポーターやエールに比べて、激しい労働の後の喉の渇きを癒すのに最適であった。 ラガー・ビールは安価で、労働者にとっては“new nickel drink”(「5 セントの新しい飲み物」)として最も手ごろな飲料となった。この低価格により、それまで産業労働者の大部分を魅了していたウィスキーに代わってラガー・ビールがその主役となった。炭坑労働はハードで危険であるばかりでなく、特に南北戦争時は雇用も極めて不規則であった。この失業の不安が、ペンシルベニア州北東部におけるラガー・ビールの大量消費に貢献したのである。

アメリカでは 19 世紀初頭に、植民地時代からアメリカ人に最も親しまれてきたラム酒に取って代わってウィスキーの消費が増えていた。このウィスキー消費量増大という状況の中で、1826 年にボストンで禁酒運動を先導する新しい組織である American Temperance Society (アメリカ禁酒協会、以下、ATS と略記) が誕生した。ATS は、当時各地の協会が独自に進めていた節酒・禁煙運動を統括することによって、この運動を連邦レベルで活性化させる目的で結成されたのである。しかし、1826 年の時点で ATS は、実際には 6 州に集中する約 200 の協会が加盟するだけの、「アメリカン」と呼ぶにはあまりに小さな全国組織であった。アメリカ独立宣言の署名者の一人であったフィラデルフィアの医師ベンジャミン・ラッシュ (Benjamin Rush) は、1784 年に著した 40 ページほどの論文「蒸留酒の人体と精神に及ぼす影響についての一考察」(“An Inquiry into the Effects of Spirituous Liquors on the Human Body and Mind”)の中で、蒸留酒が身体と精神の両方に悪影響をもたらし、記憶力と理解力を減退させるさまざまな病気の原因になると警告し、蒸留酒の全面禁酒とそれに代わってワインやビールなどの低アルコール度飲料の使用を勧めた。このフィラデルフィアでも 1827 年に反ウィスキー組織が結成され、それは 10 年後に Pennsylvania Temperance Society と改組され、1844 年までに州内の禁酒運動を促進するために活動する 35,000 人の会員と 51 の協会が存在していた。

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

こうした禁酒運動の高まりにもかかわらず、Eagle Brewery が 1850 年代以降も順調な発展を遂げたのは、この地域における「交通革命」(“transportation revolution”)による。Schuylkill County の 1840 年代初頭における鉄道ラインは、65 マイル程度に過ぎなかった。しかし、その後 10 年以内に、Philadelphia and Reading や Lehigh Valley のような巨大鉄道会社がこの地域に多くの鉄道網や駅を建設し、地域ビール会社へのモルトや氷などの資材輸送の主役が運河から鉄道に代わった。さらに 1855 年、Plane engineering (山を切り開いて平らにする鉄道敷設技術) が Broad Mountain を超えて Mahanoy Valley に至る Schuylkill County 北東部と連結する鉄道の建設を可能とし、この技術革新から 10 年以内に、Schuylkill County で産出される石炭のほぼ半分以上が北東部からの輸送となった。石炭ブームと鉄道の進展は、ポッツビルのみならず、Ashland, Shenandoah, そして Mahanoy City への鉱山業者や炭鉱夫の北への移住を促進し、この地域の経済発展が Eagle Brewery に更なる発展機会を与えたといえよう。

Eagle Brewery はポッツビルの唯一のビール会社ではなく、2 つの強力なライバル会社があった。1 つは 1831 年に設立された Orchard Brewery で、Eagle Brewery が Yuengling 家の一貫した同族会社であったのに対して、その所有者は数回変わった。Orchard Brewery は「フィラデルフィア・ビールと同等」(“equal to that of Philadelphia”)と評判の「ポッツビル・ビール」ブランドを持っていたが、後に Port Carbon の River Road に移転し、A. S. Moore によって所有された。1835 年に火事で工場が消失し、Reading の Lauer brewing family が再建して 1845 年まで営業を続け、Port Carbon の工場は 1877 年まで操業していた。他のポッツビル・ビール会社は、1865 年創業の Retting Brewery である。最初の社名は、(John) Liebner and (Charles) Retting Brewery と称し、事業所は East Norwegian and Railroad street の南西地区にあった。当初は、工場近くの酒場を営業し(今日の brewpub)、南北戦争後、社名を Blue Brewery and Saloon and

Blue Tavern and Brewery と変更した。1869 年に Market and 9th street の北西部に移転し、Market Street Brewery として知られるようになった。

石炭産業の発展が、ポッツビルにさらに多くのビール会社を生んだ。1860 年に Franz C. Kuentzler が 37 Center Street でビール会社を設立し、また 1882 - 1884 年の間、Ludwig Raeder がポッツビルでビールを製造した。この他、Schuylkill Haven (1841 年)、Minersville (1842 年)、Saint Clair (1850 年)、そして Tamaqua など多数の零細ビール会社が、ポッツビル各地区の住民たちにビールを供給していた。このため、Eagle Brewery の南北戦争期 (1861 - 1865 年) における年生産高も、まだ 15,000 バレルほどに留まっていたのである。

3. 後継経営者の時代 (1866 - 1899 年)

D. G. Yuengling の義理の弟 (John Frederick Betz) と長男 (David G. Jr.)

D. G. Yuengling の義理の弟となる John Frederick Betz は、父 John George Betz と母 Rosine Elizabeth Ulmer の息子として 1831 年 4 月 8 日に、ドイツのシュトゥットガルト近くで生まれた。J. F. Betz が 1 歳になったとき、一家はアメリカに移住し、Schuylkill County に住んだ。Betz にとって幸運だったのは、彼の妹の Elizabeth が D. G. Yuengling と結婚したことであった。こうして Betz は、19 歳まで Yuengling Brewery でビール醸造の修行を積み、さらにヨーロッパ各地のビール工場で技能を高めた後、1853 年にニューヨークの 347-355 W. 44th Street にビール会社を設立し、社名を義兄の会社と同名の Eagle Brewery とした。さらに Betz は 1867 年に、フィラデルフィアの 401-421 Newmarket and Callowhill にあった William Gaul's Brewery を賃借りし、1869 年に同社を買取り、1878 年には 52,891 バレルの売上を挙げて同市内 85 のビール会社の中で第 3 位とした。彼の息子とのパートナーシップで 1880 年に John F. Betz and Son. を設立し、1886 年にはフィラデルフィアの Germania Brewing

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

Company も買収した。Betz は 1902 年に死去するが、こうしたニューヨークやフィラデルフィアの都市市場での彼の成功は、D. G. Yuengling に、自分の息子たちがポッツビル以外でビール事業をより成功させる可能性のあることを確信させる契機となったことが重要である。

D. G. Yuengling の長男 David Gottlieb Jr. は、1842 年に生まれた。彼はポッツビルの学校で教育を受けた後、父の監視の下に brewer としての修行を経て、19 歳になった 1860 年、ニューヨークにあった J. F. Betz のビール会社で職工長 (foreman) の地位を得た。その後、ヨーロッパ各地で醸造技術を学んだ後、1866 年にバージニア州リッチモンドでビール会社 Betz, Yuengling, & Beyer (J. F. Betz, David G. Jr., そして他のビール業者 Louis Beyer のパートナーシップによる) を設立する。この会社は 1869 年、社名を James River Steam Brewery, D. G. Yuengling Jr. and Company と変更し、瀝青炭の産出地区に近接していたため大量の炭坑夫需要に支えられて繁盛していたが、1878 年にアイスクリーム冷凍機メーカーの Richmond Cedar Works に同社を売却して、David G. Jr. は妻 Catherine とともにニューヨークに移り住んだ。

1870 年頃、ニューヨークは既にフィラデルフィアを抜いて全米トップのビール生産地となっており、特にブルックリンには約 50 余りのビール会社が乱立して「ビール通り」(“Brewer’s Row”) として知られていた。このため David G. Jr. は既に 1871 年、W. T. Ryerson とパートナーシップで 5th Avenue and 128th Street にエール・ビールを生産する会社を設立していた。彼は次いで 1875 年、同地区の 10th Avenue and 128th Street に第 2 のビール会社 Yuengling and Company-Manhattan Brewery を設立し、“New York Lager Beer” のブランド名で知られるラガー・ビールを生産した。1879 年には、5th Avenue のエール・ビールが 29,390 バレルに対し、10th Avenue のラガー・ビールは 58,316 バレルを売上げ、David G. Jr. は 1884 年以降、ラガー・ビールに事業の重点を移していった。ま

た David G. Jr. は 1882 年 10 月 17 日に、New York State Brewers' and Malsters' Association の初代所長にも選任されていた。

David G. Jr. によるビール事業の衰退の始まりは、1890 年代初頭に彼の息子のスキャンダル事件が起こった時期と一致していた。David G. Jr. 夫妻は 3 人の子供 (Kate, Lena, そして Frederick) を持っていたが、唯一の息子 Frederick (通称 “Fred”) が、1892 年の冬にブロードウェイの Fifth Avenue Theater で上演された “Deception” という芝居でスターとなった女優 Baron Blanc と結婚し、間もなく離婚訴訟事件に巻き込まれた (Fred はその後 1908 年、自動車事故により 38 歳の若さで死去する)。さらに、1873 年恐慌 (同年 9 月にジェイ・クック商会の銀行破産をきっかけとして起こったアメリカ独立以来最大の不況) に続いて起こった 1893 年恐慌 (アメリカ史上未曾有の不況で、多くの鉄道、企業、銀行が倒産し、街には 300 万人以上の失業者が溢れた。) の影響を強く受け、その年の終わりに、10th Avenue の D. G. Yuengling Jr. Brewing Company は Samuel Untermeyer に買い取られた。その後 1897 年に、同社は Yuengling 一族の John F. Betz and Son. に買収され、J. F. Betz (彼の死去後は息子の John F. Betz Jr.) は 1903 年まで Betz's Mahattan Brewery の社名でこのビール事業を運営したが、David G. Jr. は結局 1905 年、破産宣告を受けた。

2 代社長 Frederick G. Yuengling と 1890 年代までの発展

Yuengling 家の州外のビール事業が破滅的な財務危機を経験している同じ頃、ポッツビルの Eagle Brewery は順調な経営を続けていたが、同社の 2 代社長には D. G. Yuengling の次男である Frederick G. Yuengling が就任することとなった (写真 2 を参照)。1848 年 1 月 26 日に生まれた F. G. Yuengling は、ポッツビルの public school を卒業後、Pennsylvania State College で 3 年間学び、さらに Staten Island にあった private school に進んだ。次いで彼は、ニューヨーク州 Roughkeepsie の Eastman Busi-

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

ness School で教育を受け、1871 年からヨーロッパ各地でビール技術を習得し、さらにフィラデルフィアの Bergner and Engle Brewing Company で実務を経験した後、25 歳になった 1873 年の大恐慌の年に父の会社に戻った。F. G. Yuengling は同年 4 月 3 日に Minna Dohrman と結婚し、10 月には父のパートナーに正式に指名され、これを機に社名が D. G. Yuengling's Eagle Brewery から D. G. Yuengling and Son. と変更された。この年の同社の年生産高は 23,000 バレルで、F. G. Yuengling は会社の株式の 1/3 を所有し、残り 2/3 は家族の他のメンバーによる“estate”(「遺産管理人」) of D. G. Yuengling が所有した。

F. G. Yuengling 夫妻には 2 人の子供があり、後に会社の「中興の祖」となる 3 代社長 Frank D. Yuengling は 1876 年 9 月 27 日、娘の Edith Louise は 1878 年 3 月 18 日に誕生した。F. G. Yuengling も父と同様に、多様な事業に利害関係を持っていた。すなわち彼は、Pottsville Gas Company の社長、Schuylkill Real Estate, Title, Insurance and Trust Company, Schuylkill Electric Railway Company の副社長、Safe Deposit Bank や Pottsville Water Company の取締役を歴任したほか、Pottsville Armory, Children's Home in Pottsville, Trinity Episcopal Church への資金援助、Yuengling Family Farm なども運営した。

1877 年 9 月 29 日に、創業者の D. G. Yuengling が 70 歳で死去した。同年におけるこの会社の年生産高は 62,740 万バレルに急伸びていたが、これは、既に実質的経営権を握っていた F. G. Yuengling の経営手腕によるところが大きかった。彼は 1877 年 5 月に電話を設置してポッツビルでの最初の電話加入者となり、ビール会社本社と工場のみならず、ニューヨーク、シカゴ、フィラデルフィアの多くの取引先との情報伝達を効率化した。F. G. Yuengling はまた、全国ビール会社 (national brewery) によって確立された配給システムを利用した多くのビール醸造業者の一人でもあった。Yuengling のビールは 1896 年までに、Schuylkill County のみならず、

鉄道によって Shamokin, Hazleton, Girardville, Mount Carmel, Ashland, Tamaqua, Mahanoy City, そして Shenandoah の貯蔵所へ送られ、さらに Northumberland, Dauphin, Lebanon, Luzerne, そして Lycoming counties の卸売業者を活用して、フィラデルフィア、ニューヨーク、ボストンのような東海岸における主要都市の酒場でも楽しむことができた。

F. G. Yuengling は技術革新にも積極的で、同工場には 1881 年までに、320 バレルの生産能力を持つ銅製の釜、各 400 馬力を持つ 10 基のポンプと 3 基のスチーム・ボイラー、そして 6 つの蒸気エンジンが設置されていた。近代化のあらゆる努力の中で最も重要なものは、ビールのパッケージにおける技術革新である。1880 - 1890 年代初頭における初期の bottling cap は cork stopper が主力で、その bottling 業務も手作業が中心であった。しかし、1892 年に William Painter が “crown”(「王冠」)bottle cap の特許を取り、これはビールの貯蔵期間を延長したのみならず、機械による bottling 作業の自動化を大いに促進した。D. G. Yuengling and Son. も 1895 年から、それまでの瓶専用会社から自社による bottling 事業を開始して醸造事業との統合を進め、これと同時にこの年、瓶詰めビールのブランド・ネーム、商標、ロゴなどをアメリカ特許局 (United States Patent Office) に登録した (写真 3 を参照)。

D. G. Yuengling の一番下の息子として 1862 年に誕生した William G. Yuengling は、Pottsville school で教育を受け、Pottsville brewery で醸造技術を習得した後、彼の長兄 David Gottlieb Jr. が設立したニューヨークのビール会社のあらゆる部門でビジネスを学んだ。William はその後 1895 年、自分のビール会社での経験を彼の次兄 Frederick G. Yuengling の会社で活用するためにポッツビルへ戻る。特にその年は、会社が bottling 業務を開始する途上にあったために全面的な協力をするが、William は 1898 年 8 月 7 日に 36 歳の若さで病死する。翌 1899 年 1 月 2 日には、Frederick も 51 歳で死去した。F. D. Yuengling は広告活動にも熱心で、新

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

写真3 Yuengling 社の “eagle logo”



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 65.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

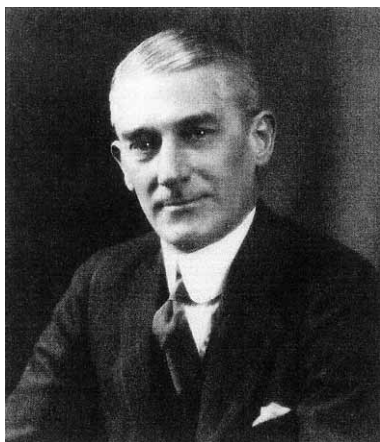
聞広告の拡大やポスター・カレンダーのカラー化にも取り組み、また同社のビール・トレイは会社の伝統的な eagle logo を強調していた。彼はまた、コロンブスのアメリカ大陸発見 400 年を記念した 1893 年のシカゴ万博において、ポッツビルの住人 Charlie Guetling と彼の愛犬 Prince のペアーが、Yuengling ビールをポッツビルからシカゴまでの約 900 マイルを手押し車で運んだ快挙に 25 ドルの報酬を与えて、同ビールの評判を高めることにも貢献した。1893 - 97 年のアメリカは未曾有の大恐慌時にあったが、こうした Frederick や William らの努力によって、同社の 1901 年における年生産高が 65,000 バレルに維持されていたことは注目されて良いであろう。

4. 第 1 次大戦期と禁酒法の時代 (1900 - 1933 年)

3 代社長 Frank D. Yuengling と第 1 次大戦期の発展

1876 年に生まれて 3 代社長となる Frank D. Yuengling の教育は、それ

写真4 3代 Frank D. Yuengling
(1876 - 1963年)



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 105.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

までの Yuengling 家のものとは異なっていた。彼は Pottsville school で教育を受けた後、マサチューセッツ州 Andover にあった名門の全寮制学校 Phillips Academy に進み、最終的にはプリンストン大学で理学士の学位を得た。しかし、父の突然の死去によりポッツビルに戻り、彼は family business を引き継ぐ決意をした(写真4を参照)。22歳の Frank は、1905年に同社の manager、1906年に general manager に就任し、1907年4月24日には

Augusta C. Roseberry と結婚した。彼らには、Frederick, Dohrman (1913 - 1971年)、そして娘 Augusta のほか、双子の Richard (1915 - 1999年、4代社長)と David の計5人の子供があった。

1906年に Yuengling 社の brewmaster に就任した Nicholas Dennebaum が、最新の技術「真空蒸留工程」(“vacuum distillation process”)を活用して、アルコール度の低いニア・ビールの生産に取り組むことを提案した。この製造工程は、ビールの味を損なうことなく、むしろ Yuengling 愛飲家が享受していた以前のオリジナルな味をほとんど存続させるもので、忠実な顧客に適応した2つのニア・ビールを製造することができた。その1つは、ニア・ビールの地域売上 NO.1 となった “Yuengling Special” である。この新ブランドは、伝統的ビールと今日の light ビールに似た味で、“Brewed and Aged the Old-Fashioned Way”(「旧式のままの醸造方法」)や “Everybody’s Drinking ‘Yuengling Special’ Now”(「今では皆が Yuengling Special を飲んでいる」)などの製品スローガンが Yuengling 製品ファンから高い評

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

価を得たばかりでなく、それは“snack beverage”(「手軽な飲み物」)として新たな地元顧客をも引き付けた。他は、同社が過去に濃いビール (porter) で成功したことを真似て発売した“Yuengling Por-Tor”である。これは、“Pure, Wholesome, Refreshing, Satisfying,”(「すっきりして体に良く、さわやかで満足」)とか“made from the Choicest Hops and Malt, Sparkling Mountain Spring Water, a Delicious and Healthful Drink.”(「厳選したホップとモルト、きらめく山の泉の水、美味しい健康飲料」)として宣伝された。

Yuengling 社はこのほかにも、ニア・ビールではなく子供を対象とした“cereal beverage”(「穀物飲料」)の“Yuengling Juvo”を1907年に発売した。これは、パブスト社の“Pablo”、シュリッツ社の“Eamo”、ストロー社の“Lux-o”に対抗した製品であり、“Yuengling Jovo”のスローガンは“The taste tells”(「飲んでみれば分る」)、“adds to the enjoyment of a good meal”(「美味しい食事の楽しみが増えた」)などで、消費者がそれを箱で買うほど売上は好調であった。次いで Yuengling 社は、“Alo”と呼ばれる別の“non-intoxicating Bbeverage”(「非アルコール飲料」)も売り出した。

これらの製品の売上が順調に伸びたのは、Yuengling 社が大衆に受け入れられるレシピを見つけたことに加えて、同社がこの地域における唯一のニア・ビール・メーカーであったことによる。同社3代社長の Frank は、競争力を持つニア・ビールを生産できると確信していたが、Mount Carbon Brewery や Retting Brewing Company のような他のポッツビル・ビール会社は、地域のビール愛飲家たちの味の好みを考慮して、完全に会社を閉鎖するかソフト・ドリンクのような他の製品を市場化することを決めていた。Yuengling 社がモルト飲料を醸造する正式なライセンスを持った唯一の地域会社であったことが重要で、忠実な顧客は、たとえそれがニア・ビールであっても生産の継続を決めた同社の製品を受け入れた。第1次大戦が勃発した1914年に、会社は D. G. Yuengling and Son, Inc., として株式会社となり、同年、Frank Yuengling がこの会社の社長に正式に選任され、

大戦が終了した 1918 年における同社の年生産高は既に 100,000 バレルに達していたのである。

全国禁酒法時代の多角化

図表 5 は、1913 年以降の全国禁酒法の成立経緯を一覧にして示したものであるが、1921 年の憲法修正第 18 条の制定直前まで、Yuengling 社と Schuylkill County の他のビール会社は、食品規制法の下で合法的であった 2.75% アルコール度のビールを生産し続けていた。しかし、1919 年のヴォルステッド法成立以降、Yuengling 社や他のビール会社は 2.75% から 0.5% アルコール度のビールに製造転換せねばならなくなった。ニア・ビール (“near beer”) として知られるこの製品の最も成功した事例は、1916 年にアンホイザー・ブッシュ社が “Bevo” として発売したものである。しかしそれ以前に、他のビール会社もニア・ビールの生産準備を開始して約 200 余りのニア・ビール製品が市場に登場していたが、Yuengling 社の同製品への取り組みについては既に述べた。Yuengling 社のニア・ビールに対する需要は、第 1 次大戦終了以後の 1920 年代末から 30 年代初頭にも増えたが、これは “real beer” (「本来のビール」) を知らない新世代の若者が低アルコールのニア・ビールで満足していたことによる。

全国禁酒法が正式に実施され、「ブートレガー」(bootlegger、アメリカ禁酒法時代の酒類密輸業者) が大衆に違法ビールを大量に提供するとともに、ニア・ビールの製造・販売に専ら依存していたビール会社の経営は危険となったため、他の事業への多角化が重要な戦略となった。シュリッツ社はチョコレートやキャンディを製造し、アンホイザー・ブッシュ社はイースト事業などを開始し、あるビール会社は工業用アルコールの生産に転換し、他社はスパゲッティやマカロニに将来性があると考えていた。ペンシルベニア州北東部でも、Kaier's Brewery はジンジャエール、ルートビア(草木の根などの汁を発酵させて造ったアルコール分を含まない炭酸入りの清涼飲料)、

図表 5 全国禁酒法の成立経緯（1913 - 1921年）

年 次	事 項
1913年 3 月 1 日	タフト大統領の拒否権を乗り越えて、連邦議会は Webb-Kenyon Interstate Shipments Act (「ウェブ・ケニヨン州際酒類運送法」) を制定した。これにより、各州に存在する禁酒法の意図に反して、アルコール飲料を他州から搬入することはできなくなった。
1913年12月10日	Anti-Saloon League (反酒場連盟) が首都ワシントンに出向き、1920 年までに合衆国憲法の修正による全国禁酒法の制定を求める議決案を連邦議会に提出した。
1917年12月11日	アメリカが 1917 年 4 月に第 1 次大戦に参戦したのにつき、ウィルソン大統領は Food Control Act (食品規制法) によって、戦時食糧難を回避するために穀物によるビールやワインの製造を 30% 以下に制限した。醸造業者にとってより重要なことは、大統領がこの法律で、ビールの合法的アルコール度を 2.75% に削減したことであった。
1917年12月18日	連邦議会は合衆国憲法修正第 18 条を通過させ、憲法修正の批准に必要な 4 分の 3 以上の州の承認を求めて、この法案が各州議会に送付された。
1918年 1 月 8 日	ミシシッピ州がこの批准の最初の州となった。
1919年 1 月16日	ネブラスカ州がこの憲法修正案を認める 36 番目の州となり、ここに合衆国憲法修正第 18 条の成立が確定した。
1919年10月10日	憲法修正第 18 条の執行法 (第 18 条の主旨を細部にわたって規定した法案) である Volstead Act (その提案者の連邦下院議員アンドリュー・ヴォルステッドにちなんで通称「ヴォルステッド法」) が成立した。
1920年 1 月 5 日	最高裁は Ruppert Case に裁定を下し、0.5% 以上のアルコール分を含む飲料を違法とした。ニューヨークの酒場経営者 Jacob Ruppert による “intoxicating beverage” (酔う飲料) とはアルコール度 2.75% 以上とする主張は否決され、これによってほとんど水に等しいものだけが合法酒として再認可された。
1920年 1 月17日	全国禁酒法が深夜 12 時 01 分から実施された。
1921年11月23日	ヴォルステッド法では薬剤としてのビールの使用を無制限に認めていたが、ドライ (禁酒法実施賛成) 派のフランク・ウィリス上院議員がこれを制限する法案 Willis-Campbell Bill を連邦議会に提出し、ハーディング大統領が署名して成立した。

(出所) Mark A.Noon, *op. cit.*, pp. 112-113.

オレンジソーダを製造し、F and S Brewery はマヨネーズ、酢、マラスキーノ（野生サクランボから造るリキュール）などを生産した。他の会社は、モルト・シロップやモルト・エキスの製造によって利益が出ると考えていたが、最も人気のあった代替物がアイスクリームであった。

禁酒法時代の Yuengling 社の年生産高は 7 - 8 万バレルに落ち込んでいたが、社長の Frank は事業状況の大きな変化を予測して、禁酒法が実施される以前の 1919 年夏にアイスクリームの生産に投資することを決めていた。そして、翌 1920 年の 1 月からアイスクリーム工場の建設が始まった。これは多分、Yuengling 家がポッツビル郊外に大農場を所有しており、アイスクリームに必要な大量のミルクを獲得できることが Frank にこうした決定を誘引したものと思われる。ビール会社と別会社である Yuengling Creamery 社からの乳製品は、特に大恐慌以前に大きな評判を生んだ。Frank の息子の一人 Frederick がこの事業を指導し、孫の Frank Jr. がその後を引き継いだ。Yuengling Creamery 社の成功は、Yuengling Brewery が不法なビール生産に従事することを回避させたが、その後売上は停滞し、1985 年にこのベンチャー事業は閉鎖された。

Frank Yuengling による他の新しい多角化はダンス・ホール事業で、これはかなりの利益を生んだ。連邦政府はアルコールを禁じたが、人々が音楽やダンスを楽しむことを禁じなかった。1920 年代は「ジャズ時代」（“Jazz Age”）とも云われ、ジャズ音楽は大いにポピュラーとなり、大きな投資の機会を生んだ。Yuengling 社は 1918 年、ペンシルベニアの企業家 Louis J. Brecker によって市内のダンス・ホールに投資しないかと誘われた。ペンシルベニア大学のウォートン・スクールの学生であった Brecker は、趣味であるダンスを楽しむためのジャズ・クラブの設備が貧弱であることに不満を持っていた。彼は Frank Yuengling に対し、12th and Chestnut Street にあった Philadelphia Roseland の ballroom（舞踏場）に 20,000 ドルの投資を求めた。次いで 1919 年、Brecker はニューヨーク市の 1658

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

Broadway and 51st Street にあった New York Roseland に 40,000 ドルの投資を求め、これは後にニューヨーク市内のトップクラブへと発展した。

Frank Yuengling は Sullivan Country Electric Company にもかなりの投資を行い、この会社は後日、Pennsylvania Power and Light Company に高値で売却された。彼はまた、1930 年代に設立された Pottsville Feed Company の社長に就任し、1963 年まで地域の農民に肥料を供給し続けた。その他、金鉱山、宝石、鉄道に加えて、ポッツビルの酒類販売店にも投資し、Pennsylvania National Bank and Trust Company の頭取も務めた。こうしたベンチャー事業のほか、第 1 次大戦期には Red Cross War Fund キャンペーンの地区代表、Trinity Episcopal Church および Good Intent Hose Company でも積極的に活躍し、地域社会の発展にも貢献した。

ポッツビルの主力産業である無煙炭産業は、第 1 次大戦後に衰退し始めたが、次いで 1929 年 10 月にウォール街の株価急落が始まった。大恐慌は石炭需要を大幅に削減し、巨大石炭会社は大量の炭坑夫を解雇したが、この最悪の 1929 年に Yuengling 社は創業 100 周年を迎えた。しかし、同社にとって幸運であったのは、その後間もなく、禁酒法廃止を望んでいたフランクリン・ルーズベルトが 1932 年の大統領選で地すべりの勝利を収めたことであった。連邦議会は 1933 年 2 月に憲法修正第 21 条（憲法修正第 18 条の廃止）を可決し、ルーズベルト大統領は次いで 1933 年 3 月、「ヴォルステッド法」を修正する法案を議会に送り、議論の後、議会が同年 3 月 21 日に「カレン・ハリソン法案」（“Cullen-Harrison Bill）を通過させた。それによって 3.2% のアルコールを含むビールは合法的となり、その法律は 1933 年 4 月 7 日午前 12 時 01 分から施行された。

禁酒法時代に生産を中止していたビール会社は、醸造再開に手間取った。ビールが熟成に長時間を要したに加えて、錆付いた設備を元に戻して運転せねばならなかったからである。しかし、Yuengling 社は 10 年以上にわたってニア・ビールを生産し続けていたので、他社より準備ができて

いた。本来のビールを再生産する仕事は、1930 年に Yuengling 社の brew-master として雇用されていた Joseph Bausbeck にまかされた。Yuengling 社は、3.2% アルコール・ビールの生産認可をあらかじめ受けることによって、“New Beer’s Eve”(「新ビール時代の前夜」)の準備を開始した多くのビール会社の 1 社となった。全国の多くの地域ビール会社は、1933 年 4 月 7 日までに手元にビールを準備していなかったため、Yuengling 社は東海岸へのビールの重要な供給会社となった。このとき発売された同社のビール “Yuengling’s Winner Beer” は、合法的ビールが復活した最初の 24 時間以内に、アメリカ人が全国で消費した驚異的な 150 万バレルの一翼を担ったビールとなったのである。

5. 苦難時代の企業存続 (1934 - 1976 年)

1930 年代の企業存続

禁酒法廃止以後の数 10 年の間に米国内のビール需要は拡大し、ビール会社の数は急激に増大した。しかし、その後における業界の趨勢は企業統合に転じて全国ビール会社 (national brewery) が支配する時代が到来し、図表 6 に見るように、その数は驚くほど減少していった。またペンシルベニア州とウィスコンシン州は、この時期に小規模ビール会社が最も統合された地域で、ペンシルベニア州北東部で閉鎖されたビール会社の一部は、図表 7 のとおりであった。

Yuengling 社が同様の運命を回避できたのは、設備を近代化した 3 代社長 Frank の早い決断による。コカ・コーラ社を始めとするソフト・ドリンク産業の発展は、技術面でボトリング工程をスピード化し効率化する機械の改善に導いたが、Yuengling 社のボトリング工場は 1895 年の開設以来変わらなかった。しかし 1936 年、Frank がボトリング能力を高めるために新しい巨大な工場に投資した。その後もボトリング技術の進展は続き、同社のボトリング工場は 1952 年 (写真 5 を参照) に再び新しい設備で近代

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

図表 6 全米とペンシルベニア州におけるビール会社数の推移

年次	全米のビール会社数	ペンシルベニア州のビール会社数
1940	598	77
1950	407	57
1960	229	26
1970	142	19

(出所) Mark A.Noon, *op. cit.*, p. 133.

図表 7 ペンシルベニア州北東部で閉鎖されたビール会社一覧

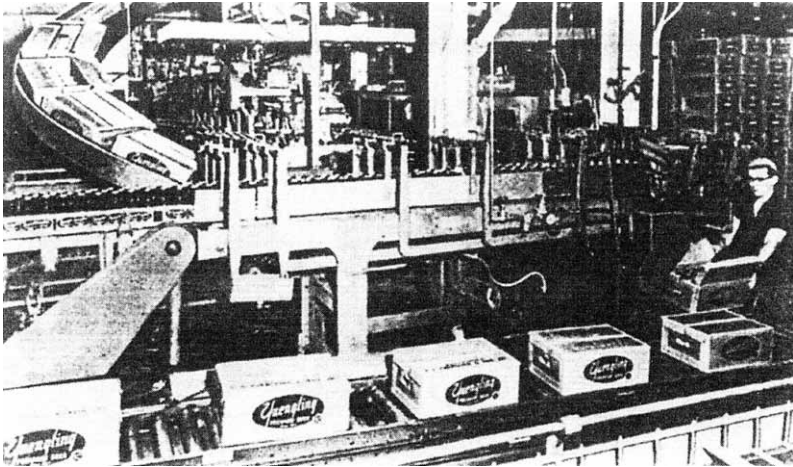
会 社 名	閉鎖年
Tamaqua's Liberty Brewing Company	1934年
Fountain Springs Brewing Company	1934年
Frackville Brewing Company (Kaier's Brewery によって買収)	1936年
Ashland Brewery (正式には Schuylkill Home Brewing Co.)	1941年
Hazleton Pilsner Brewing Company	1954年
Mauch Chunk Brewery	1968年
Kaier's Brewery	1968年
Stegmaier	1974年
Fuhrmann and Schmidt	1976年
Mount Carbon Brewery	1976年

(出所) Mark A.Noon, *op. cit.*, pp. 134-135.

化された。

Frank はさらに、缶ビールの出現というビール業界の大きな変化にも迅速に対応した。金属容器と高度に炭酸を含むビールとの絶縁が缶ビールの市場化を阻害する要因となっていたが、American Can Company (Canco) は 1931 年以来この問題に取り組み、1934 年に特殊エナメルで裏打ちされた缶の開発に成功した。翌 1935 年 6 月、Krueger Brewing Company がニュージャージー州で缶ビールの試販を始め、同年 7 月、パブスト社もアイオワ州で同社の“Export Beer”を“Tapa Can”として発売した。その後、缶ビール戦争にシュリッツ社が“Cap-Sealed (キャップ付き)”缶で参入して缶切りが無用となり、それはビール愛飲家たちに好評で広く受け入れら

写真5 Yuengling 社の1950年代におけるボトリング工場



（出所）Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 137.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

れた。

Yuengling 社も1938年夏にポッツビルで最初の缶ビールを発売したが、これが、同社のその後の売上拡大の要因となったのは以下の理由による。1935年頃まで、ほとんどのビールは樽詰めで売られており、缶ビールや瓶ビールは業界売上高の約30%に過ぎなかった。しかし、1920-30年代に電気冷蔵庫が各家庭に広く普及し、消費者は生ビールを酒場や居酒屋で飲むより、ビールを家に持ち込んで冷やして飲むことが通例となった。缶やボトルの包装技術はその後改善が進み、1959年までに、缶・瓶ビールは総生産高の80.2%を占めるようになった。とりわけ缶ビールはその後より人気を得て、1969年までに瓶ビールの生産高を超えたのである。

Yuengling 社はビールを包装する技術ばかりでなく、ビールを輸送し配送する方法でもペンシルベニア地域のライバル会社より一歩先んじていた。フレッシュネスはビールとアイスクリームの商品価値を左右するものであり、Yuengling 社は1920年代以降、両製品を広範囲に迅速に配送せねば

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡
ならなかったからである。同社は 1930 年代に、ニアビールとアイスクリームの配送トラックにかなりの投資をし、その後、大型トラックの効率を極大化するために社内に輸送部門 (shipping department) を創設していた。

第 2 次大戦期 1970 年代の企業存続

第 2 次大戦期は、ビール事業の主要原材料である小麦のほか、瓶、ボトルキャップ、缶用の錫の利用が制限され、またビールの配送もタイヤやガソリンの不足で難しくなった。しかし連邦政府は、ビールが米兵の志気にとって重要であると考え、戦時食糧庁 (War Food Administration) もビール各社に生産を 15% 増加することを命じた。例えば、戦争の最後の年には、5,000 万ケースのビールが地球上の米兵のために海外に輸送された。だが政府のビール契約が、シュリッツ、パブスト、アンホイザー・ブッシュなどの巨大な全国ビール会社に偏っていたため、鉄道網との連結に限界を持つ小規模な地域ビール会社の経営は、長期にわたって弱体化していった。

しかし、ペンシルベニア州の北東部では戦時中に無煙炭の需要が一時的に増大したため、炭坑夫は徴兵延期を命じられ、週 6 日の仕事で通常となっていた。終戦後の 1950 年までに、産業市場で無煙炭から瀝青炭への転換が起こり、また無煙炭は家庭暖房用燃料としても、石油、天然ガス、電気などの代替エネルギーの出現によって需要が激減した。このため、ペンシルベニア州北東部ポッツビルの人口は、1890 年の 14,117 人から 1940 年には 24,550 人へと増加したが、それ以後 10 年ごとにほぼ 8% ずつ人口が減り、1960 - 2000 年には計 36.6% 減って 15,549 人となった。Yuengling 社にとっては、こうした炭坑都市人口の低下が事業の苦戦を招く要因となったが、人口の大部分を占めた若い炭坑労働者がビール市場の中核となって、同社の売上を支えてくれたことは幸いであった。

ビール広告における全国的趨勢が、新聞広告やビルボードからラジオとテレビに移行した時代においてさえ、Yuengling 社は「有望なブランド」

(“discover brand”)としての評判を維持し続けた。それは、同社が地域のビール愛飲家を強く意識して、地方のラジオやテレビ広告を積極的に活用したからである。1946 年 5 月 9 日に WPPA (AM13) がポッツビルで放送を開始し、Schuylkill County の最初のラジオ局となった。その 2 年後、WPPA 局の FM 局である WAVT FM102 が放送を開始したが、Yuengling 社はこれらのラジオ広告を利用したほか、フィラデルフィアのラジオ局でも広告した。同社のテレビ広告は、1960 年代初頭のランカスター地区のテレビ局で作られたコマーシャルが最初であったが、その後、フィラデルフィアや Wilkes-Barre-Scranton 地区に基盤を持つテレビ局でも定期的に放映された。

小規模ビール会社のこうした広告努力にもかかわらず、かつてペンシルベニア州北東部で堅固であった顧客ロイヤリティは、1960 年代半ば以降に次第に減退していった。それは、巨大な全国ビール会社による巨費を投じたテレビ・キャンペーンによって、アメリカにおけるビール愛飲家たちが、市場における唯一の最新ビール・スタイルは「ライトビール」であると確信するに至ったからである。まず 1967 年に Rheingold 社がカロリー控えめのビールを導入し、その後 Miller Brewing Company が「味は美味しく、軽い感じ」(“Tastes great.... Less filling”)というコマーシャルでライトビールをファッション化することに成功した。これは、ポーターやエールのような濃い味のビールに誇りを持っていた Yuengling 社にとっては最悪の事態で、同社と同様の地域ビール会社は“sub-premium”製品のメーカーとしての認識が強まり、売上は落ちた。

Yuengling 社は、顧客人口の減少や全国ビール会社と戦わねばならなかったばかりでなく、地元ライバル会社との競争も激しかった。そのうち数社は 1970 年代半ばまで存続しつづけたが、1951 年における各社の売上高は図表 8 のとおりで、Yuengling 社はその中位に位置していたことが明らかである。

図表 8 Yuengling 社とその地元ライバル会社一覧（1951年）

会社名（主要販売地域）	売上高（バレル）
Stegmaier (Wilkes-Barre)	500,000
Kaier's (Mahanoy City)	183,500
Old Reading (Reading)	173,500
Gibbons (Wilkes-Barre)	173,500
Yuengling (Pottsville)	115,000
Sunshine (Reading)	108,000
F & S (Shamokin)	114,500
Mount Carbon (Pottsville に近接)	80,000以下
Columbia (Shenandoah)	60,000以下

（出所）Mark A.Noon, *op. cit.*, p. 141.

Stegmaier Brewery は、メイン州からフロリダ州までの東海岸の配給路をカバーする 60 台のトラック隊と鉄道網を保持し、同社の生産高は 1940 年までに 50 万バレルを超えていた。Yuengling 社と最も近接したライバル会社 Mount Carbon Brewery の“Bavarian Beer”はポッツビルでも人気があり、同社の売上高は 1950 年代 1970 年代まで Yuengling 社を上回っていた。Kaier's Brewery の 1951 年の売上高は最高潮を示し、同年にこの会社のビールは、ベルギーのブリュッセルでアメリカ・カナダのベスト・ビールを示す“Star of Excellence”として表彰された。

しかし、全国ビール会社が近代的広告メディアを駆使してそのブランド名を浸透させていったとき、これらの地域ビール会社は次々に閉鎖されていった。まず 1966 年、Kaier's Brewery がフィラデルフィアの Henry F. Ortlieb Brewing Company に 50 万ドルで売却された。Ortlieb 社は 1968 年まで Kaier's の工場を営業し続け、Fuhrmann and Schmidt 社の子会社を通じて Kaier's のブランドを維持していたが、その F&S 社も 1976 年にビールの生産を中止した。同年の 1976 年、Mount Carbon 社が閉鎖され、Yuengling 社は同社のレシピとブランドを買い取った。また 1974 年には、Stegmaier Brewing Company が近隣地区の Lion, Inc., によって買

収されていた。これら競合地域ビール会社の Kaier's や F & S などの閉鎖は、各社のビール愛飲家たちの忠誠を最も近い地域ビール会社に移して Yuengling 社の売上を助けたが、全国ビールブランドの人気上昇により、それは微々たるものにとどまった。

1950 - 70 年代の苦難時代における Yuengling 社を救った重要な要因は、小売ビール配給業者を通じて消費者に 6 本ないし 12 本のパック入りビールを直接に販売した、ペンシルベニア州独自の流通システムである。禁酒法時代の終了とともに、同州の法律制定者はビール法を改定した。この改定法は、ビール会社に小売販売業者の排他的支配権を与えていた「特約居酒屋制度」(“tied-house system.” 小売店に特定銘柄のビールだけを販売する制度)の復活を禁じたが、それは同時に、ペンシルベニア州の豊かなビール文化をライバルの全国ビール会社から保護する狙いを持つものでもあった。この州のビール産業は 1934 年以降、ビール会社、卸売業者、そして小売業者（ビール配給業者）の 3 者で運営されていた。しかも、「ペンシルベニア州アルコール法」(“Pennsylvania Liquor Code”) の第 4 項 441 条の規定によって、同州のビール配給業者はパック入りビールを販売する唯一の小売業者となり、食料品店やコンビニでのビールの販売は違法とされた。これにより、ビール配給業者はこの州のビール売上の 70% を占めることとなった。

これに対して他の州では、食料品店、コンビニ、酒類専門店でのビール販売が主流であったため、大量生産による安価なビールブランドを持つ全国ビール会社が、地域ビール会社の製品をこれら小売店舗の棚から排除しつつあった。しかし、ペンシルベニア州ではビール販売の厳格な法律によって、Yuengling 社や他の地域ビール会社が全国ビール会社と価格で競争することを支援していた。その典型的な事例は、Yuengling 社が発表した 16 オンスのリターナブル瓶の存在で、俵約型のビール愛飲家たちは瓶返却による僅かな返金を歓迎していた。また地域ビール会社にとっても、大型のリターナブル瓶は地元配給業者への商品供給にとって好都合であり、

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

逆にそれは遠方の全国ビール会社にとって不利となった。リターナブル瓶によるバック入り販売の温存は、Yuengling 社の売上高が衰退しているとき、それを補助する重要な役割を果たしたのである。

Yuengling 社の苦難は同族経営の硬い絆によっても救われたが、1899 年に始まった Frank 時代は 1960 年に終了し（正式な社長在任期間は 1914 - 1960 年）、彼は 1963 年 1 月 29 日に死去するまで同社の会長を務めた。Frank が同社にとって「中興の祖」といわれる所以は、その社長在任期間が長かったことに加えて、禁酒法時代やその後の苦難時代を適切な戦略によって無事に乗り切った貢献による。後継社長には Richard L. Yuengling, Sr.（通称、Dick Sr. 写真 6 を参照）が就任し、兄の F. Dohrman は 1971 年に死去するまで生産部門を担当した。4 代社長 Dick Sr. は、16 歳で West Mahanoy Township High School を卒業した後、Columbia Brewery で徒弟奉公をした。その後、マンハッタンの United States Brewers Academy で brewmaster の資格を得、大学院で醸造化学やボトル技術を学ぶ。Yuengling 社には 1942 年に入社し、1960 年に同社の工場長兼社長に就任した。

Yuengling 社が「アメリカ最古のビール会社」と云われるようになったのは、Boston Beer Company（1828 年に創業）が 1956 年に、128 年間にわたってビールを製造した後に閉鎖されたことに起因している。アメリカは 1976 年に建国 200 年を迎え、過去に対する関心が強まり、「アメリカ最古のビール会社」（“America’s Oldest Brewery”）としての地位が注目されるようになった。そこで同年に D. G. Yuengling and Son, Inc., は、National Register of Historic Places と Pennsylvania Inventory of Historic Places において、「この重要な産業の歴史的起源の地方における小規模ビール会社の代表として、ペンシルベニアにおける最善の存続企業である」（“the best remaining example in Pennsylvania of the small local brewery representative of the historical origins of this important industry”）との正式認可を受けた。これ

写真 6 4代 Richard L. Yuengling, Sr .
(1915 1999年)



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 135.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

写真 7 5代 Richard Dick Yuengling, Jr.
(1943年)



(出所) Mark A. Noon, *op. cit.*, p. 157.
(D. G. Yuengling and Son, Inc.)

によって Yuengling 社の製品は、その後 20 世紀最後の 20 年間に、「信頼できる品質」(“bankable quality”)としての高い評価を受けるようになったのである。

6. マイクロブリュワリー発展期における成長と拡大 (1977 年 - 現在)

5代社長 Richard “Dick” Yuengling, Jr. と 1980 - 1990 年代の発展
地元の新聞 *Pottsville Republican* の 1985 年 7 月 24 日の記事は、「5 代目の Yuengling がビール会社を運営することになった」と発表した。1943 年 3 月 10 日に誕生して 42 歳となった Richard “Dick” Yuengling, Jr. は、ビールの配給業を 12 年間経験した後、健康を害してビール会社の経営が難しくなった父 Richard L. Yuengling, Sr. から同社を買取ったが、これは彼にとって絶好の会社引継ぎのタイミングとなった(写真 7 を参照)。

輸入ビールとスペシャリティ・ビールは、1970 年代までは米国ビール

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡
市場でたいした影響力を持っていなかった。しかし、マイクロブリュワリー（年間ビール生産量が 150 万バレル以下のミニ醸造所）は 1980 年代により一般的となり、その成長は 1996 年に停滞し、それ以後は横ばいとなった。1980 年までに、スペシャルティ・ビール会社の数は 10 社であったが、1990 年の 170 社から 2000 年には 1,368 社に増えた。一方、輸入ビールの市場シェアは禁酒法廃止直後の 1930 年代は 0.04%、1950 年でも 0.11% に過ぎなかった。しかし、オランダの Heineken、アイルランドの Guinness、メキシコの Corona、オーストラリアの Foster's などの輸入ビールに対する需要は 1970 年代に急成長し、1980 年代には一時停滞したが、1990 年代初頭から再び急上昇した。このような現象が出現したのは、大量生産ビールの同質性と消費者の所得の上昇が高品質で味の多様なスペシャルティや輸入ビールの選好を支えたことによる。

こうした時代的趨勢の中で、少なくとも 50 社あまりの新しいビール会社がペンシルベニア州にも参入してきた。1987 年にアダムスタウンに設立された Stoudt's Brewing Company を初め、マウントボコノの Franco-nia Brewing Company、ウェインの John Harvard's Brew House、ハリスバーグの Troegs Brewing Company、カリスルの Whitetail Brewing Company などがその例である。1980 年代の Yuengling 社は、マイクロブリュワリーと呼ぶには既に生産規模が大きすぎていたが、この趨勢は全国ビール会社や急成長のミニ醸造業者より同社の地位を有利に導いた。それは同社が、Andrew Jackson 大統領の時代から高品質ビールの生産と販売に徹しており、ほとんどのマイクロブリュワリーより安い価格でビールを生産できたし、古いタイプのビールの売上が伸びて Yuengling 社製品に対する評判が高まったことによる。

Yuengling 社は伝統的に多様なビールを提供し、その製品のラインナップは時代とともに変化してきた。これまで同社に導入されたビールの代表的ブランドは、“Old German”、“Yuengling Bock Beer”、“Winner Beer”、

“Yuengling Pale Ale”, “Yuengling Cream Ale” などであるが、第 2 次大戦以後の Yuengling 社は、“Pottsville Porter”, “Lord Chesterfield Ale”, そして “Yuengling Premium Lager” の 3 つのブランドに集中していた。同社の売上第 1 位は “Premium Lager” であったが、それは低価格ブランドであったためブルー・カラー市場で受けた。しかし、マイクロブリュワリー革命が人々にポーターのような濃い味のビールを経験することを刺激したため、1980 年代末には Yuengling 社の “Pottsville Porter” がビールの玄人の間でも評判となった。

Yuengling 社は、“ミラー・ライト”(1974 年に発売)によるライト・ビールのブームに対しても敏感に対応した。同社の醸造責任者 Ray Norbert (1942 年に入社)は、新しい製品を開発する際、醸造工場で長期間ビールを貯蔵することによって全国ブランドより品質の良いライト・ビールを生産することを目指した。これは高コストにつながったが、5 代社長の Dick Yuengling, Jr. は、「われわれのライト・ビールは水のようなものではなく、独自の味を持つべきである」と主張した Norbert の計画に同意した。“Yuengling Light” の生産は 1986 年 6 月 25 日に始まったが、Wilkes-Barre や Scranton 市場での積極的なテレビ広告ともあいまって、それは大成功を収めることができた。

顧客の味の変化を満足させ、マイクロブリュワリー・ブームを利用した他の試みの中で、Yuengling 社はビール愛飲家たちをビール創業者の時代に引き戻すようなビール “Traditional Amber Lager” を造ることによって、会社を全国ブランドとさらに差別化することにも成功した。新しいブランドはゆっくりと開発され、醸造責任者の Norbert は、19 世紀前半にチェコスロバキアで開発されたラガー・ビールを参考モデルとした。1987 年 11 月 1 日に発売された “Traditional Amber Lager” は、軽い標準的なアメリカ・ビールとは異なり、ホップやモルトをたっぷり含んだ琥珀色のもので、特に重要な原料は Yuengling 仕様によりワシントン州で育成された

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

特別なホップであった。また Norbert は、60% の Yuengling Porter と 40% の Yuengling Premium が最高のブレンドであるとして、それを 1986 年に “Blak and Tan” ブランドとして発売したが、1990 年代初頭にはこれを魅力的な黒の 16 オンス缶でさらに積極的に売り出した。

1990 年、Yuengling 社は販売部長として David Casinelli を雇い入れた。彼はフィラデルフィアの L&M 社の販売管理者の息子で、輸入ブランドの売り込みに 8 年の経験があり、特に 1980 年にオーストラリアの “Foster’s Lager” を目立たぬボトルから巨大な 25 オンス缶に変えて大ヒットさせたことでも知られていた。Casinelli は社長の Dick に対し、同社製品ブランドの弱点が “uniformity” の欠如にあることと、“gourmet beer image” (「グルメ・ビールのイメージ」) に移行すべきことを提案し、そのプロジェクトをマンハッタンのトップ広告代理店会社 D’Addario Design Association 社に委ねた。広告会社は、Yuengling 社の長い family 遺産と歴史を new design の中核とし、以下の 3 点を新しいブランド・イメージに不可欠なものとした。すなわち 印象的な樽を掴んでいる eagle logo (D. G. Yuengling のオリジナルな会社名 Eagle Brewery を想起させる)、伝統的でクラシックな筆記体による会社名の表記、“American Oldest Brewery” の用語、以上である。Yuengling の製品ラベルにはすべてこの 3 つが明記されたが、パッケージに欠けていた unifomity を確保するため、Porter は赤ラベル、Premium は金ラベル、Yuengling Light は白ラベルの色によってそれらを区別した。

Casinelli と広告代理店のマーケティング戦略は成功し、それは “Yuengling Premium”、“Pottsville Porter”、そして “Load Chesterfield Ale” の売上を下げることなく、3 つの新しいブランドは大ヒットとなった。“Yuengling Light” は市場で好調であったが、“Black and Tan” はさらに良かった。古いビール会社に対する製造負担を軽減するため、Yuengling 社は 1996 年にアレントアウンの Stroh’s Brewing Company と “Black and

Tan” の「醸造契約」(contact brewing) を結び、同製品の生産量の約 1/10 が Stroh 社で生産された。この 2 つのブランドに加え、“Traditional Amber Lager” は Yuengling 売上の 20% を占め、それはやがて同社の基幹ブランドとなった。“Amber Lager”は、その後 10 年以内に Yuengling 売上の 60% に達し、1998 年にはフィラデルフィアにおいてバドワイザーの売上を抜き始め、さらに 2002 年初頭、“Yuengling Lager Light” を生み出すまでに成功した。この “Traditional Amber Lager” らに支えられて、1990 年代の Yuengling 社の売上数値は毎年 15% から 35% に増加し、この 10 年を通じて総売上高は約 400% 増となった。市場領域もペンシルベニア、ニュージャージー、デラウェアのコア市場を超えて、メリーランド、ニューヨーク、ワシントン DC、そしてヴァージニア諸州にまで拡大し、若干メインやカロライナにも同社のブランドは広がった。

Yuengling 社の生産能力は、1990 年までに年 180,000 バレル、1990 年代半ばまでには年 300,000 バレルとなっていたが、まだ不十分であった。そこで同社は 1998 年 5 月 8 日、Saint Clair Industrial Park に近い Mill Creek Road に沿った 16 エーカーの地点に 5,000 万ドルを投じて新ビール工場を建設すると発表した。次いで翌 1999 年 4 月には、フロリダ州タンパにあった年生産能力 150 万バレルを持つ Stroh Brewery を買収した。2000 年に建設が始まった新工場は 2002 年 2 月にビール生産を開始し、これらによって Yuengling 社の生産能力は一挙に年 300 万バレルにまで拡大されたのである。長年懸案となっていた Reading, Blue Mountain & Northern Railroad Company の路線延長申請をめぐる Yuengling 社と市議会との争いも 2002 年 10 月までに妥協が成立し、2003 年 1 月 16 日(木)にこの路線は開通した。

1990 年代の Yuengling 社には、悲しいニュースの知らせと苦境に立たされた場面が相次いで起った。。1999 年 1 月、Yuengling 家の 3 代にわたり 57 年間勤め上げた brewmaster の Ray Nobert が退任し、同年 2 月

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

に James P. Buehler (同社に 27 年間勤務) がその地位に就いた。同年 3 月 27 日には 83 歳の 4 代社長 Dick Yuengling Sr. が死去し、Ray Nibert も 2001 年 10 月に死去した。また 1956 年以来、「アメリカ最古のビール会社」という用語は Yuengling 社の製品や新製品のラベル上に表記されていたが、1786 年創業のカナダ・トロントの Molson Breweries 社が、アメリカと北アメリカは同義語であるのでそれは「作為的な誤記」(“deceptively misdescriptive”) と主張して訴訟を提起した。このモルソン訴訟はその後 5 年間争われたが、モルソン社は「アメリカのビール購買大衆が、アメリカという用語を United States of America よりも North America と同義に解している」との証拠を示すことができず、最終的に 1998 年 11 月 11 日、ようやく Yuengling 社の勝利でその決着がついた。

後継姉妹による 2000 年以降の発展

2004 年に、Yuengling 社は創立 175 周年の記念日を迎えた。Family Business という雑誌が、最近のランキングの中で Yuengling 社を「アメリカ最古の同族企業」の中で第 31 位にリストしたが、これら同族企業の長命の鍵は次の 4 つの主要ルールによる。

1. 小企業を維持する (Stay small)
2. 株式を公開しない (Don't go public)
3. 大都市を避ける (Avoid big cities)
4. 同族経営を守る (Keep it the family)

もちろん、このルールには例外がある。Yuengling 社が全国ビール会社に対抗してビール市場における数%のシェアを主張するようになれば、同社はもはや「ルール 1」に違反して小規模企業とはいえない。また同社のブランドは「ルール 3」に違反して、既に主要な都市市場で売られていた。さらに Yuengling 社は、アメリカのトップ 10 のビール会社に仲間入りを果たし、同社では既に約 200 人の従業員が働いていた。

しかし、5代社長 Dick の4人の娘たちは、ビール醸造事業のさまざまな分野に適した各自のバックグラウンドを持っていた。長女の Jennifer L. Yuengling は、1993年に Bucknell University の経営学科を卒業後、1996年にペスレヘムの Lehigh University でカウンセリング心理学の修士号を取得していた。彼女は家業のビール事業に従事することを決めたとき、発酵・貯蔵・包装について厳しい訓練を受けた後、1997年に醸造技術の免許を得るためにシカゴの Siebel Institute に入学し、ポッツビルに帰国後も熟練 brewer とともに多くの経験を積んだ。次女 Deborah Yuengling Ferhat は、ペスレヘムの Moravian College で会計学を学んで公認会計士となり、1996年に Yuengling 社本社で正社員となり、給料支払いや会計の仕事に従事している。4女 Sheryl L. Yuengling は、University of Alabama で消費者サイエンスの学士号を取り、Yuengling 社では輸送や配給業務を行っている。3女の Wendy Yuengling Baker は、ビール事業のマーケティングや広告に有用な能力を持ち、メリーランドの広告会社で製品企画を経験した後、2004年から姉妹たちの家業に合流することになった。

Jennifer と Deborah は、ともに2人の子供を持つ母親でもあり、伝統の家業を継ぐ7代目の育成にあたっている。しかし、6代目の後継経営者はまだ正式に決まったわけではない。Dick Jr. のビール事業に対する情熱は旺盛で、より強力な会社創設のために日夜努力しているが、彼が退任したとき、Yuengling 社は自動的に娘たちに与えられるわけではない。彼女らは、前の世代の先例に従って同社を買い取り、姉妹たちは、父と同様に伝統を引き継ぐことのプレッシャーに直面することになる。次女の Deborah は、「人々が Yuengling ビールの味と会社の歴史を評価してくれている。顧客がそれを望む限り、われわれはビールを造り続けるのだ。」と述べ、また長女 Jennifer も「時代ごとの苦難に、祖先たちが無事に乗り越えてきたことを私は長年見てきた。若い頃はそれを当然のことと考えていたが、今はそれを誇りに思っている。（“Now it's really something to be proud

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡 of.”)」と言及している。これらの発言は、1829 年にペンシルベニア州ポッツビルにビール会社を創設し、「話好きより仕事好き」(“worker rather than a talker.”) と評された初代 David Gottlieb Yuengling を歓喜させるものであるに違いない。

7. 結語

以上、我々はこれまで、D. G. Yuengling and Son, Inc., の 175 年の歴史的な発展過程を 5 つに時期区分して検討してきたが、各時期の年表を作成して、それらを整理しておくことにする。なお、Yuengling 社は同族所有の会社で財務数値を一切公開していないため、いくつかの年次の年生産高を参考までに太字で示しておいた。

1. Eagle Brewery の設立と初期の発展 (1829 - 1865 年)

1806 年 D. G. Yuengling が 3 月 22 日にドイツのアルディングゲンで誕生

1823 年 D. G. Yuengling の 2 番目の妻 Elizabeth Betz が誕生

1825 年 Schuylkill 運河がポッツビルとフィラデルフィアを連結

1828 年 D. G. Yuengling がドイツのヴェルテンベルクから移民

1829 年 D. G. Yuengling がポッツビルに移住し、North Center Street 地区に Eagle Brewery を設立
初年度の年生産高 600 バレル

1831 年 火事でビール会社が消失
D. G. Yuengling は Mahantongo Street 地区にビール会社を再建

1841 年 D. G. Yuengling は 2 月 14 日に Elizabeth Betz と結婚

1842 年 David G. Yuengling Jr. が誕生

1848 年 Frederick G. Yuengling が 1 月 26 日に誕生

1855 年 Plane engineering (山を切り開いて平らにする鉄道敷設技術) が

Schuylkill County 北部への鉄道を開設し、石炭生産の中心地
が Schuylkill 南部から北部へ移動

1860 年 David Yuengling Jr. がニューヨーク市にあった John Frederick Betz のビール会社で職工長に就任

1862 年 D. G. Yuengling の 10 番目の末息子 William が誕生
南北戦争期の年生産高 15,000 バレル
(1861 - 65 年)

2. 後継経営者の時代 (1866 - 1899 年)

1866 年 David G. Yuengling Jr. がバージニア州リッチモンドに 5 階建て煉瓦造りのビール会社を建設

1867 年 John Frederick Betz が 401-421 Newmarket and Callowhill にあった William Gaul のビール会社を賃借りしてフィラデルフィア市場に参入

1871 年 David Yuengling Jr. はリッチモンドでのビール会社の営業を続けながら、ニューヨーク市のビール市場にも強い関心を持つ
彼は 5th Avenue and 128th Street でエール・ビール事業を開始

1873 年 Eagle Brewery から D. G. Yuengling and Son. に社名を変更
Frederick Yuengling が父の共同経営者として任命される
Frederick とニューヨーク州ブルックリン出身の Minna Dohrman が 4 月 3 日に結婚
1873 年の年生産高 23,000 バレル

1875 年 David Yuengling Jr. がラガー・ビール製造のため、ニューヨーク市 10th Avenue and 128th Street に第 2 ビール会社を設立
Yuengling and Company-Manhattan Brewery と称されたこの

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

会社は，“New York Lager Beer” で知られるブランドを製造

1876 年 Frederick と Minna 夫妻の息子である Frank D. Yuengling が
9 月 27 日に誕生

1877 年 D. G. Yuengling が 9 月 29 日に 70 歳で死去

電話がビール会社本社と工場間を連結し，Frank Yuengling
は最初のポッツビル電話加入者となる

1877 年の年生産高 62,740 バレル

1881 年 320 バレルの生産能力を持つ銅製の釜とステンドガラスの天井
がビール工場に設置

1882 年 後に Frank Yuengling の妻となる Augusta Roseberry が 9 月
29 日に誕生

1893 年 8 月 16 日に Charles Guetling と彼の愛犬 Prince が，手押し車
に 1 バレルの Yuengling ビールを積んでポッツビルからコロ
ンブス（アメリカ大陸発見 400 年）記念万博の会場シカゴまで約
900 マイルの旅を完遂（この旅は 7 月 19 日に開始）

1894 年 Elizabeth Betz Yuengling が 501 Mahantongo Street で 1 月 9
日に 71 歳で死去

1895 年 Yuengling 社がボトリリング工場の業務を開始

1898 年 William Yuengling が 8 月 7 日に 36 歳で死去

1899 年 Frederick Yuengling が 1 月 2 日に 51 歳で死去

3. 第 1 次大戦期と禁酒法の時代（1900 - 1933 年）

1901 年の年生産高 65,000 バレル

1906 年 Nicholas Dennebaum を brewmaster に任命

1907 年 Frank Yuengling が 4 月に Augusta Roseberry と結婚

150 バレルの生産能力を持つ新しい穀物加熱器がビール工場に
設置

- 1912 年 Frederick D. Yuengling の妻 Minna Yuengling が 2 月 6 日に
606 Mahantongo Street の自宅で死去
- 1913 年 Frank Yuengling の家が 1440 Mahantongo Street に完成し、
家族が移転
F. Dohrman Yuengling が 12 月 16 日に誕生
- 1914 年 Frank D. Yuengling が株式会社 D. G. Yuengling and Son, Inc.
の社長に正式に任命される
ビール工場に近接した Yuengling の家が本社敷地内に建設
- 1915 年 Richard Yuengling Sr. が 8 月 16 日に誕生
- 1918 年 Frank Yuengling は 12th and Chestnut Street の Philadelphia
Roseland Ballroom に 20,000 ドルを投資
1918 年の年生産高 100,000 バレル
- 1919 年 Frank Yuengling は新年に開設したニューヨーク市 1658
Broadway and 51th Street の Roseland Ballroom にも 40,000
ドルを投資
- 1920 年 全国禁酒法が 1 月 17 日に実施
Yuengling Ice Cream の工場建設も 1 月に開始
- 1929 年 Yuengling 社が 100 周年記念のニアビールを製造
- 1930 年 Joseph Bausback を brewmaster に任命
- 1933 年 全国禁酒法が廃止
4 月 7 日に Yuengling 社は 3.2% アルコール度ビールの製造
・販売を開始
禁酒法時代の年生産高 70,000 - 80,000 バレル
(1920 - 33 年)

4. 苦難時代の企業存続 (1934 - 1976 年)

- 1936 年 Yuengling 社はボトル工場を近代化して潜在的生産力を増大

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

- 1938 年 8 月に Yuengling 社はポッツビルで最初の缶ビールを発売
- 1942 年 後に Yuengling 社の brewmaster に就任する N. Ray Norbert が入社
- 1943 年 Richard Yuengling Jr. が 3 月 10 日に誕生
- 1949 年 brewmaster の Joseph Bausback が死去
William Sherk がその地位に就任
1951 年の年生産高 115,000 バレル
- 1954 年 Yuengling 社が 125 周年記念
- 1956 年 1828 年以来、ビールを製造していた Boston Beer Company が閉鎖
Yuengling 社が “American’s Oldest Brewery” となる
- 1960 年 Frank Yuengling が社長を退任
- 1963 年 Frank Yuengling が 1 月 29 日に死去
- 1971 年 F. Dohrman Yuengling が死去
- 1975 年 Frank Yuengling の妻 Augusta Yuengling が 6 月 6 日に死去
- 1976 年 Yuengling 社は National Register of Historic Places と Pennsylvania Inventory of Historic Place において「アメリカ最古のビール会社」と認定
ポッツビル地区における Yuengling 社最後のライバル会社 Mount Carbon Brewery が閉鎖
Yuengling 社はマウント・カーボン社のブランド “Bavarian Beer” のレシピを買取る

5. マイクロブリュワリー発展期における成長と拡大（1977 年 現在）

- 1978 年 故 Augusta Yuengling の遺産相続人は、1440 Mahantongo Street にあった Frank D. Yuengling Mansion を文化・教育センターとして使用するために SCCA (Schuylkill County Council

for the Arts) へ移転

- 1979 年 Yuengling 社は 150 周年記念のパブリシティ事業の一環としてカラフルな缶を作製
Frank D. Yuengling Mansion をワシントン D.C. の National Register of Historic Places に移転
- 1980 年 100 年使用した銅製の醸造釜をステンレス製に交換
- 1985 年 1907 年以来使用していた鉄製の穀物過熱器を大容量の過熱器に交換
地元の新聞 *Pottsville Republican* は、Dick Yuengling Jr. がビール会社を買取って 5 代社長に就任したと発表
Yuengling Creamery 社が閉鎖され、禁酒法時代に始まった Yuengling Ice Cream の生産が終了
- 1986 年 “Yuengling Light” の生産が 6 月 25 日に開始
“Black and Tan” も発売
- 1987 年 “Yuengling Traditional Amber Lager” が 11 月 1 日に発売
- 1990 年 David Casinelli を販売部長として採用
Yuengling 社は D’Addario Design Association 社に新しいラベルのデザインを委任
1990 年の年生産高 180,000 バレル
- 1992 年 11 月に、ブランドの需要増加に対処するため、Mahantongo Street の工場拡張を推進
- 1996 年 Yuengling 社は www.yuengling.com でオンラインを開始
Yuengling 社はアレントアウンの Stroh’s Brewing Company と “Black and Tan” の醸造契約を締結
Dick Yuengling Sr. の妻で、Dick Yuengling Jr. の母である Marjorie H. “Marge” (Hood) Yuengling が自宅で死去
1996 年の年生産高 300,000 バレル

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

1998 年 5 月 8 日に, Yuengling 社は Saint Clair Industrial Park 近くの Mill Creek Road 沿いの 16 エーカーの敷地に 5,000 万ドルの新ビール工場を建設すると発表

Yuengling 社は Molson 訴訟に勝利し, 「アメリカ最古のビール会社」というスローガンに法的権利を取得

1999 年 Dick Yuengling Sr. が 3 月 27 日に死去

N. Ray Norbert が 1 月に brewmaster を退任し, James P. Buehler が 2 月にその地位に就任

4 月に, Yuengling 社はフロリダ州タンパの Stroh Brewery(年生産高 1,500,000 バレル)の買収を発表

2001 年 Yuengling 社の brewmaster を退任した N. Ray Norbert が 10 月に死去

2002 年 2 月に Mill Creek Road の新ビール工場が Yuengling ビールの生産を開始

1987 年以来最初の新製品 “Yuengling Lager Light” を発売

Yuengling 家は, Mahantongo Street にあった pump-house の資産を Yuengling Bicentennial Park とするために市に提供

2002 年の年生産高 3,000,000 バレル

2003 年 1 月 16 日に, 新ビール工場に連結する鉄道が開通

2004 年 Yuengling 社は創立 175 周年記念を迎える

参 考 文 献

Mark A. Noon, *Yuengling: A History of America's Oldest Brewery*, McFarland & Company, Inc., 2005.

Yuengling, Edith, “The Story of the Yuengling Brewery” *Publications of the Historical Society of Schuylkill County*, 1989.

“Frank D. Yuengling Dies : President of Brewery Since 1914” *Pottsville Republican*, 29 January, 1963.

- Dave Carroll, "5th-generation Yuengling Runs Brewery." *Pottsville Republican*, 24 July, 1985.
- Patricia Hippler, "Yuengling Announces Plans for New \$50 Million Brewery." *Pottsville Republican*, 8 May, 1998.
- "It's still 'America's Oldest'." *Pottsville Republican*, 11 November, 1998.
- "Yuengling is still 'Oldest'" *Pottsville Republican*, 13 November, 1998.
- Stephen Pytak, "The Other Yuengling." *Pottsville Republican*, 18-19 December, 1999.
- Joshua Sophy, "Dick Yuengling, Schuylkill life a fit." *Pottsville Republican*, 25 May, 2002.
- Marj Charlier, "Yuengling's Success Defies Convention." *Wall Street Journal*, 26 August, 1993.
- Janathan Poet, "Nation's Oldest Brewer Sees Vat Possibilities." *Washington Post*, 6 January, 2002.
- Maureen Ogle, *Ambitious Brew: The Story of American Beer*, Harcourt, Inc., 2006.
- Victor J. Tremblay & Carol Horton Tremblay, *The U. S. Brewing Industry, Data and Economic Analysis*, The MIT Press, 2005.
- Jerry Apps, *Breweries of Wisconsin*, The University of Wisconsin Press, 1992.
- William L. Downard, *The Cincinnati Brewing Industry: A Social and Economic History*, Ohio University Press, 1973.
- Lew Bryson, *Pennsylvania Breweries*, Stakpole Books, 1998.
- Thomas C. Cochran, *The Pabst Brewing Company, The History of an American Business*, New York Univesity Press, 1948.
- Peter Hernon & Terry Ganey, *Under The Influence: The Unauthorized Story of the Anheuser-Busch Dynasty*, Simon and Schuster, 1991.
- Ronald Jan Plavachan, *A History of Anheuser-Busch 1852-1933*, Arno Press, 1976.
- John Gurda, *Miller Time: A History of Miller Brewing Company 1855-2005*, Miller-Brewing Company, 2005.
- William Koska, *The Pre-Prohibition History of Adolph Coors Company 1873-1933*, Adolph Coors Co., 1973.
- Russ Banham, *Coors: A Rocky Mountain Legend*, Greenwich Publishing Group, Inc., 1998.
- Dan Baum, *Citizen Coors: An American Dynasty*, Harper Collins, 2000.
- Andrew Sinclair, *Era of Excess: A Social History of the Prohibition Movement*, Harper and Row, 1964.

ペンシルベニア州ポッツビルにおける D. G. ユングリング・アンド・サン社の軌跡

岡本 勝著『アメリカ禁酒運動の軌跡 植民地時代から全国禁酒法まで 』
ミネルヴァ書房、1994年。

岡本 勝著『禁酒法＝「酒のない社会」の実験』講談社現代新書、1996年。

Stephen Morris, *The Great Beer Trek: A Guide to the Highlights of American Beer-Drinking*, Penguin Books, 1984.

佐藤盛男訳『アメリカ地ビールの旅』昌文社出版、1995年。

山口一臣稿「ウイスコンシンのビール産業 全国的ビール寡占の成立とその要因」成城大学『経済研究』第125号、1994年。

山口一臣稿「禁酒運動対ビール醸造業者、1919 1933年：パブスト・ブリューイング社の事例を中心として」成城大学『経済研究』第127号、1995年。

山口一臣著『アメリカ食品製造業発展史 独占規則と環境規則の展開 』千倉書房、2003年。

山口一臣稿『米国ビール産業の概観（1950 2002年）』成城大学『経済研究』第177・178合併号、2007年。

山口一臣稿『アンホイザー・ブッシュ社の経営史（創業 1930年代）』成城大学『経済研究』第179号、2008年。